

自然情報継続調査について

1 R6までの調査

| 調査 | 確認種数 | 備考 |
|----------------------------|-------------------|----------------------------------|
| 既存調査(H21~26) | 5,381種 | レッドリスト選定種:465種 ブルーリスト選定種:285種 |
| レッドリスト改訂追加調査 (R1~3.10月) | 2,491種 | レッドリスト選定種:420種 ブルーリスト選定種:276種 |
| 岐阜市の自然情報継続調査(R5 ~R7.3月) | 889種 (新規確認15種) | |

【R7の調査体制・方針等】(予定含む)

9分類群8部会を設置し、部会ごとに定点における調査、種を絞った調査など、効率的な調査により、本市の生物多様性の状況を把握する。

2 R7の各分類群の調査結果(中間)

| 調査分類群 現行調査 | 調査方法・場所 | 調査結果(中間) |
|---------------|--|---|
| 植物 | ・金華山や百々ヶ峰などを中心に調査を実施 ・重要種の生育記録地や生育環境を現地踏査にて確認 | ・岩田西でカテンソウ、三田洞、金華山でサイハイランを確認 ・三田洞で特定外来生物のオオハンゴンソウを確認 |
| 哺乳類 | ・対象種は岐阜市版レッド・ブルー2023掲載種など ・岐阜市内全域で調査を実施 | ・センサーダラマで頻繁にイノシシを確認 ・達目洞でヌートリアを確認 |
| 鳥類 | ・対象種は岐阜市版レッド・ブルー2023掲載種など ・主に岐阜市内の長良川左岸 鏡島大橋から河渡橋までの区間などで河川と河川敷の野鳥の調査を実施 | ・市内での観察はここ数年されていなかったが絶滅危惧IB類のタマシギを確認 ・特定外来生物のガビチョウとソウシチョウを確認したが、著しい増減はない。 |
| 爬虫類 | ・対象種はニホンイシガメ、その他カメ類 ・既往調査でニホンイシガメの記録がある岐阜市北西部で調査を実施 | ・岐阜大学周辺(新堀川、村山川)の調査でニホンヌッポン、ニホンイシガメ、クサガメ、ミシシッピアカミミガメのほか、交雑個体(ニホンイシガメ×クサガメ)を確認 |
| 両生類 | ・対象種はニホンアカガエル、アズマヒキガエルなど | ・ニホンアカガエルの産卵池では、産卵数が大幅に増加した。 ・アズマヒキガエルの産卵池では、例年どおり卵のうを確認できた。 |
| 魚類 甲殻類 | ・魚類は在来種のカワバタモロコ調査、外来種のコクチバス調査(シュノーケリング) ・甲殻類は在来種のミナミテナガエビ、外来種のチュウゴクスジエビ等の調査 | ・長良川本川では、以前多くみられたウキゴリが減少する一方、スミウキゴリの増加傾向がみられた。 |
| 昆虫類 | ・対象種は岐阜市版レッド・ブルー2023掲載種など ・岐阜市内全域で調査を実施 | ・大洞と椿洞北部でギフチョウを確認 ・長良川でクツワムシを確認 ・特定外来生物のアカボシゴマダラが比較的普通にみられるようになった。 |
| 貝類 | ・対象種は岐阜市版レッド・ブルー2023掲載種など ・岐阜市内全域で調査を実施 | ・岐阜市のヒルゲンドルフマイマイ個体群は、核ゲノムの解析から周辺地域と遺伝子が大きく異なっており、未記載種・隠蔽種の可能性が示唆された。 |

3 R7の調査結果(中間)から判明したこと

- 市内での観察はここ数年されていなかったタマシギが確認される、昨年まで確認例が減少していたスミウキゴリで増加傾向がみられるなど、岐阜市レッドデータブック掲載種の情報の蓄積が進んだ。
- 繁殖力が強く各地での駆除対象となっているオオハンゴンソウの確認、近年確認されるようになってきたアカボシゴマダラが普通に見られるようになるなど、新たな特定外来生物の分布拡大・定着状況が確認された。

4 確認された主な種



5 調査結果などの報告

- 分類群ごとの調査結果とともに「生物多様性に迫る4つの危機」に関する考察、生物多様性に関する新たな知見などを含めた報告が提出される。

6 今後の自然情報継続調査について

- 岐阜市の生物多様性の状況を把握するため、令和8年度以降も調査を継続する。